

株寅福のトマト工場が稼働



1月15日、北村地区にて準備が進められていた株寅福のトマト栽培用の植物工場が稼働を迎え、約8万5500本の苗が栽培レーンに植えられました。
敷地面積は2万5千㎡で、既に中須田地区で稼働しているトマトハウスの約2.5倍の規模となり、太陽光や温泉熱などの自然エネルギーを最大活用する方法で、コストを抑えつつ年間収量1千トンを見込んでいくとのこと。
運営する代表の加藤夢人さんにお話を伺ったところ、『ブランド化を目指し、上ノ国産ミニトマトも作っているほか、地域に雇用を生むため、相談に応じて午前中のみや、保育所の送り迎えに合わせた時間など、生活事情を考慮した働きやすい就業形態をとっています。地域に合った雇用を生み、故郷の発展にも繋がるような経営をしていきたい。』と話していました。

エビかご漁、漁獲量は順調に推移



上ノ国町沖合でのエビかご漁が1月上旬から始まりました。地元漁師の方々は、天候を見ながら朝6時頃に漁港を出港し、大崎からおおよそ3キロの沖合で、エサを入れたかごを海底に沈めて行う漁法により、4時間ほど漁を行い、ボタンエビやシマエビのほかゴジラエビと呼ばれているガサエビなど漁獲します。
水揚げされたエビは、手慣れた浜のお母さん方が種類や大きさとに選別、鮮度を保つために素早く箱詰めされ、翌日の東京豊洲市場での競りに間に合うよう、空路にて出荷されています。
1月21日現在、漁獲量は昨年の2倍、市場価格は1.5倍と順調に推移しており、漁は漁場を移動しながら4月上旬まで続けられることから、今後も豊漁が続くことが期待されます。

わくわく大抽選会で当選多数



12月22日から31日までの間、地元の特産品や商品券などが当たる『わくわく大抽選会』の抽選券が商工会に加盟する46事業所で配布されました。
この事業は、町内商店の活性化を図ろうと上ノ国町商工会（小林恭平会長）が企画し、昨年からは抽選券1枚が配られました。
1月8日に商工会関係者による厳正な抽選が行われ、約10万円の応募の中から、特賞やわくわく賞など336本が決定しました。
当選商品の引き換えは1月10日から17日までの間で行われ、商工会では、今後も加盟事業者を中心に、活性的な創出を図り町の経済が活性化する事業を展開していくこととしています。

社会人フットサルの地域リーグ 上ノ国町初開催



1月19日、渡島檜山管内の社会人チームが参加するフットサルリーグ『道南日本海リーグ』が、本町スポーツセンターにて開催され、5チーム約70人の選手たちが競い合いました。
これは、地域のフットサル文化を発展させ、競技人口を増やそうという有志により、3年前に設立された渡島檜山管内の社会人リーグで、秋季から冬季を中心に総当たりで試合を行っています。
この日は、主に江差と上ノ国の社会人で構成されるチームに上ノ国高校生2人も参加し、2人ともゴールを決めて所属チームが逆転するなど、大きく勝利に貢献していました。